

# News Letter

2020.04  
Vol. 20



Contents

- 女性医師支援担当者連絡会での発表
- 女性医師交流会を開催
- キャリアパス相談会を開催
- 女性医師インタビュー
- 医療人パパの会PENGUINSセミナーを開催

速報

令和2年4月よりセンター長に松浦恵子先生、副センター長に中田健先生、立山香織先生が就任されました。詳細は次号でお知らせします。

活動報告

## 女性医師支援担当者連絡会にて 大分大学医学部の取り組みを発表

12月8日(日)日本医師会館大講堂にて、日本医師会女性医師支援センター・日本医学会連合共催による「令和元年度女性医師支援担当者連絡会」が開催されました。この連絡会は、各大学、医学会、都道府県医師会における女性医師支援や男女共同参画に関する取り組みについての情報・意見交換を目的に開催されたものです。当日「各団体の取り組みから」にて、大分大学医学部と帝京大学医学部の取り組みの発表がありました。本学からは「オール大分女性医師復帰支援への取り組み」と題して副センター長の松浦先生より「女性医師採用サポートコース」と「復帰支援プログラム」を中心に大分大学医学部や大分県での復職支援について講演されました。



活動報告

## 女性医師交流会を開催



1月30日(木)大分大学医学部附属病院に所属する女性医師を対象に「女性医師交流会」を開催しました。この会は、同じ病院に勤務していても所属する部署が違うとなかなか話をする機会がない、ロールモデルやメンターを見つけたいという意見を基に開催している会です。当日は、皮膚科の広瀬先生よりご自身のキャリアや私生活、これからの活動など盛りだくさんの内容のお話をいただきました。その後、参加者全員による自己紹介、懇談が行われました。参加者は所属や立場やプライベートなど環境が違っても、女性であり、医師であるという共通点から、それぞれの仕事や子育てに関する話などを和やかに歓談しました。参加した女性医師からは、「普段ゆっくりと話す機会のない他の科の先生とお話ができてよかった。」「また参加してみたい。」との感想を多くいただきました。



## 活動報告

## キャリアパス相談会を開催しました



2月12日と18日に、「キャリアパス相談会」を開催しました。この会は医学部5年生と大分大学医学部附属病院に勤務する女性医師の交流会で、軽食をとりながら少人数で進路などの相談が出来る会です。女子学生には大学病院における臨床実習中には聞けなかった進路選択や、仕事と家庭・育児の両立について不安に思っていることなどを直接聞ける貴重な機会です。

12日、18日の2日間で、多数の女子学生、女性医師に参加をいただきました。

会の初めに現役女性医師のお話として、12日には皮膚科の広瀬先生、18日には耳鼻咽喉科の藤永先生が、ご自身の医学生時代のこと、診療科を選択する時のこと、そして結婚を決めた時のことや子育てと仕事の両立、現在の生活のことなどを話して下さいました。参加された学生さんや先生方は、時に笑いあり、時には深く頷きながらお話に引き込まれていました。

その後、自己紹介を挟んで、学生さんからの質問に女性医師が回答をし、その中で新たな質問も出てきました。初めは恥ずかしそうにしていた学生さんも徐々にうちとけていき、会の中盤からは普段ではなかなか聞けないような質問もでてきて盛り上がりました。学生さんたちは「診療科の選択」「結婚・出産の時期」などに興味があったようで、細かいところまで質問する姿が印象的でした。女性医師の皆さんも、丁寧にご自身のことや周りの先輩方のお話を基にしたアドバイスをしていました。

参加した学生からは「色々な先生方のお話を伺えて、すごく参考になりました」「先生方の実体験をお聞きして、これから先のキャリアを考える上でとても参考になりました」「先輩の先生方とプライベートな話ができてうれしかったです」「想像していたより具体的に話して頂けてとてもタメになりました」「今回参加されなかった先生方とも機会があればお話しさせていただきたい」などの感想をいただきました。



## お知らせ

## マタニティ白衣利用者の声

- ・利用のきっかけ 医局長に教えていただきました。
- ・着用期間 2週間程度
- ・着用頻度 毎日
- ・着心地 少し大きめでしたが、ゆったりしてお腹に優しかったです。
- ・ひとこと 身長が低い女性にはかなり大きく感じるかもしれないので、もうワンサイズ小さいものがあると良いと思いました。



\* 貸出希望の方はセンターまでご連絡ください。内線5715 mail: carsupport@oita-u.ac.jp

## インタビュー

このコーナーでは、大分大学医学部附属病院で働く医療人の方々の声をお届けします。  
今回は、昨年度復職をして子育てと仕事を両立している  
女性医師お二人のお話を伺いました。

## 膠原病内科 森山 かおり 先生

3人のお子さんを持ち、ワークライフバランスを実践されています。

File 1



### 両立で大変なことは？

やはり子どもにかけてあげられる時間が少ないので、子どもの教育など心配な部分はありますが、幸いみんなしっかりきて頑張ってくれているので、今は子どもに勇気づけられています。

### 復帰した時どうでしたか？

10年間のブランクがあるので、最初は必死でした。お薬もかなり変わっていましたし、遅れを取り戻さなくてはいけないと思って大変でした。

### 子育てで工夫していることは？

一緒にいれる時は、なるべく一緒にいるようにしています。その為に平日の間に週末にしなければいけないことを計画しておく。家に帰ったら子どものことを考えるようにしています。本当に仕事をしている男の先生たちは家に帰っても仕事のことをされているので、そこで差がつくのだらうなと思うのですが、子どもを育てるのには必要な時間として、家と病院で割り切っています。

### 将来イメージするなりたい医師像は？今後のキャリアアップは？

まだ色々迷っているところです。復帰してあまりたっていないので、今後の方向性はゆっくり考えていると思っています。

膠原病内科は、患者さんと長いお付き合いになるので、患者さんとじっくりかかわっていけるのが私にはあっている気がしますし、先生と話せてほっとしたと言われるのが一番うれしいです。どちらかといえば治療で貢献していけたらなと考えています。

### ◆メッセージ◆

これから女性医師が働く割合は増えてくると思います。体制も整ってきていますので、もう少ししたら私も支える立場になれたらと思っています。

## 総合内科 中村 かおり先生

学外からの復職を希望されて12月復職研修を受けられました。

File 2

### 研修を受けようと思ったきっかけは？

私はブランクと長年の行政医師のみのキャリアです。男性医師が次のキャリアに移る時にそのまま移られるのを見て、「私にはできない、内科外来にての研修を受けないといけない。受けない。」と切に願ったのがきっかけです

### 仕事とプライベートのワークライフバランスで工夫していることはありますか？

子ども達も育ち上がっているので参考にならないかもしれませんが。簡単に言えばメリハリをつけるよう気をつけてます。勤務時間内は当たり前ですが、業務のみ。時間外は家庭を優先するようにしています。ただ、勉強や産業医業務の準備に時間を取られるのが実情です。

### 今後のキャリアアップについてはどのように考えておられますか？

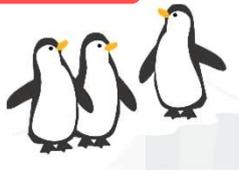
これは実は考えていません。今あるところで輝き、淘汰されていくと思います。医師として働く以上ずっと知識のアップデートをします。

### ◆メッセージ◆

「ほとんどの先生にとって私がかかなり年上。正直やりにくかったのではないかと思います。4ヶ月と短い期間でしたが、上級医師に恵まれとても幸せでした。教授から研修医の先生まで私の質問に答えてくださって厚く御礼申し上げます。正直もう少し居たかったです。ありがとうございました。



## 活動報告



## 第5回医療人パパの会

## THE PENGUINS設立5周年記念セミナー開催



2月27日（金）挟間キャンパス臨床中講義室にて第5回医療人パパの会（通称THE PENGUINS）を開催しました。

設立5周年を迎えた今回は、講師にパパ料理研究家であり株式会社ビストロパパ代表取締役の滝村雅晴氏を講師に迎え「家族で食卓を囲む回数は有限 ～トモシヨク（共食）のススメ～」セミナーを実施しました。当日は年度末の忙しい中、医師、薬剤師、事務等の多職種の24名にお集まりいただきました。

中田先生の司会のもと、会の始めにイクボスであり、プライベートではイクジイでもある消化器内科の村上教授から挨拶をいただきスタートしました。

講師の滝村さんは、「家族みんなで食卓を囲むトモシヨク（共食）活動を広めよう」と日本パパ料理研究会を設立。パパ料理教室をはじめ子育てやワークライフ・バランスの講演を多数行っています。

滝村さんが料理を始めたのは、2003年に長女の誕生により、ご夫婦ともに忙しく、頼りにしていた外食ができなくなり、レシピを見ながらお料理をしたところ、今まで料理をしたことがなかった自分でもおいしく作ることができたからだそうです。その後、「ビストロパパ」というブログをはじめ、毎日作った料理とレシピを公開しているそうです。このブログはなんと、今年で14年目ということでした。

料理の本を見ながら料理を始めたばかりの頃は使い切れない鍋や包丁を買い、スパイスを何十種類もそろえコース料理に挑み、食べれるようになったのが深夜になってしまったことや作ることに満足して後かたづけは奥様に任せっきりになってしまったことなどの失敗もあったそうです。

こうした失敗から、家庭料理は「自分軸」で作るのではなく、家族のお腹のすき具合や体調に合わせた「家族軸」で作るものだと気づき、パパ料理は「男の趣味の料理ではない」と痛感したそうです。また、料理を作るようになって家族とのコミュニケーションを深めることもできたとのことでした。自分が作る側になって、妻が料理を作ってくれていた時ありがとうと言っていたのかなと考えたそうです。

天国に行った長女が、パパ料理研究家という無二の仕事の授けてくれました。家族で囲む食卓の時間は限られているんだよ、ということも多くの人に知ってほしいと思います。

最後に、今日お話を聞かれている皆さんにも、働く時間を短くして、家族の笑顔を見るために料理を作ったり、一緒に食べたりする幸せを感じてほしいという言葉でセミナーは終了しました。

第5回を迎え男性医療人パパの会PENGUINSも認知度が高まってきております。

イクメンパパ以外にも活動に興味をお持ちの方をお待ちしていますので、PENGUINSへの参加希望の方は、センターまでご連絡ください。

